

第十六章 文の成分の位置

普通の位置

主語・述語の位置

補語・客語の位置

前の章までに於て、普通の文及び特別の文の成分に關するお話を致しましたが、是から此等の各が文の中に於て何んな順序に置かれるかと云ふことに就いてお話しすることに致します。

尋常普通の文章に於いて各成分の置かれる順序は大體次の通であります。

(一) 主語は他の主要成分よりは上に置かれ、述語は他の成分よりは下に置かれます。主「水流る。」述「谷が深う。」主述

(二) 文の中に一つの補語又は客語がある場合には、之を主語と述語との間に置くのが普通であります。主「將軍白馬に乗る。」補「猫が鼠を捕る。」主客述

文の中に二つの補語がある場合には、所動の補語を上置き、母所子補に袖に縫らる。」補「泥棒に藏にはいられる。」補

補語と客語がある場合には、其の位置は一定致しませぬ、唯意味の重いも

の主の上に置くのであります。補「汝に筆客を與ふべし。」述「手紙客を友人補に託す。」述「老人主が枝補に短冊客を附けた。」述「馬客を木補に繋ぐ。」述併し補語が客語的補語である場合には之を下に置き、令動の補語である場合には之の上に置きます。貫之客を土佐補の守述に任ず。」令「侍女補をして舞客を舞はしむ。」述「江戸客を東京補と改めた。」令「按摩補に肩客を揉ませる。」述

文の中に二つの補語と客語がある場合には、所動又は令動の補語の上に置きます。「甲、乙所の爲補に職客を丙補に奪はる。」述「我弟令をして事情客を父補に告げしむ。」述「友達の妻君所に酒客を下男補に強ひられた。」述「祖父主が兄令に弟補に財産客を譲らせた。」述

總主語・總客語及び同格語の位置

(三) 總主語はそれに屬する主語の上に、總客語はそれに屬する客語の上に、又同格語はそれと一致する語の上に置きます。「仁者總主は命長し。」總主「藍總主は浙江總客の産客を良品とす。」補「義貞逆臣義時主を誅す。」述「櫻總主は色主も匂述もよい。」總客「魚サカナは鯛客を好みます。」同格「兄補頼朝補に思述まれて、吉野補に隠れた。」補

提示語・獨立語の位置

提示語は主要成分の上に、獨立語は文の上に置かれます。「議長提示(客)は議員主之

倒置

上の位置の普通の場合を舉げて見ますと、斯うなります。

1. 述語を主語の上に置くもの。

美なる哉山河の國。何事を語り給へるぞ諸君は。
述 形、修 主 客 述 主
 もう歸るのか君は。旗を持たう僕は。
副、修 述 主 客 述 主

2. 補語又は客語を主語の上に置くもの。

降る雪に樵の道も埋れけり。何事をいかなるものが書きたるや
形、修 補 形、修 主 述 客 主 述
 らむ。彼の筆を誰に汝は與へしぞ。
形、修 客 補 主 述

何を君は見て居るのか。兄から私は教を受けたのです。
客 主 述 補 主 客 述

3. 副詞的修飾語を主語の上に置くもの。

早くも旭日の御旗は翻りぬ。
副、修 形、修 主 述

どんと船は岸につきあたつた。
副、修 主 補 述

4. 補語・客語を述語の下に置くもの。

思ひさや雪踏み分けて君を見んとは。棹はうがつ波の上の月を。
述 補 主 述 修 客
 船は襲ふ海の中の空を。
主 述 修 客

中つた中つた金的に。きつと忘れるな今いつた事を。」

5. 形容的修飾語を述語の下に置くもの。

浪の文織れ唐の大和の。

これが母です私の。

6. 副詞的修飾語を述語の下に置くもの。

船は去りぬ海のあなたに。船疾く漕げ日のよさに。

待て暫く。着物を着る風を引くから。

7. 獨立語を述語の下に置くもの。

聲絶えず、鳴けや鶯。

こら、待てゐざり。

8. 以上の二つ又二つ以上が混淆したもの。

とへかし人の花のさかりを。いざたまへ浴に太夫どの。

やれよ君加藤にボールを。

文の成分の倒置は斯の如く種々に行はれますけれども、之を無暗に行つ

てはならぬことは固よりであります。併し誤解を生ずる虞のある時には、假令普通の位置を取つて居るものでも、其の順序を變じなければならぬのであります。例へば私は毎日汽車で附屬小學校へ通學する生徒に遇ふ。」と云ふ文の「毎日」「汽車」では共に「附屬小學校へ通學する」を限定するのか、又は「汽車」だけが「附屬小學校へ通學する」を限定するので、「毎日」は其の下の總べての語句を限定するのか、又は「毎日」も「汽車」も共に下の總べての語句を限定するのか、口で云ふ場合には聲に斷續があるから分りますけれども、筆に書くときにはそれが紛れ易うございます。で、「毎日」「汽車」が共に「附屬小學校へ通學する」を限定する意味を示すのなら、原文の儘でも善いのですけれども、若し「汽車」だけが「附屬小學校へ通學する」を限定して、「毎日」は其の下の總べての語句を限定する意味を示すのか、又は「毎日」「汽車」が共に下の總べての語句を限定するのかならば、却つて普通の位置を破ることには成りますけれども、其の位置を變じて、「私は」「汽車」で「附屬小學校へ通學する生徒に」「毎日」遇ふ。又は、「私は」「附屬小學校へ通學する生徒に」「毎日」「汽車」で「遇ふ。」と云ふやうにするのがよいのであります。